

## サトイモ（普通掘り）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	I型			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	II型			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
主な作業		堆肥施用	畦立	施肥・畦立	植付け	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追肥・土寄せ	追敷肥・土寄せ	追敷肥・土寄せ	追敷肥・土寄せ	追敷肥・土寄せ	収穫

(3) 所得率 50%

(4) 経営規模 100a

(家族労働力2人の場合)

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

最も一般的な露地栽培で、一斉に収穫出荷するか、順次掘りとして出荷していく。また、いったん貯蔵した後に順次出荷していてもよい。栽培はしやすい作型であるが、生育中～後期の夏季乾燥には注意を要する。

#### 2 適応地域

全域

#### 3 栽培条件

乾燥には弱いため、保水力が高く日当たりの良い圃場を選定する。水田や利水条件の良い圃場が望ましい。また、ネグサレセンチュウのいないところを選ぶ、連作すると収量が低下するので3～4年の輪作を原則とする。

#### 4 施設装備

畦立て整形マルチ植え付け機や堀取機を利用すると、省力化・大規模化が可能。

#### 5 経営目標

(1) 収量 1.5 t/10a

(2) 投下労働時間 190時間/10a

### 栽培技術

#### 1 品種と特性

普通栽培 I 型：石川早生丸、早生蓮葉芋

普通栽培 II 型：大吉、えぐいも、鳥播

「石川早生丸」

ハウス早掘り栽培を参照

「早生蓮葉芋」

ハウス早掘り栽培を参照。

「大吉」

セレベスとも言われ、親子兼用、晩生種。

赤芋によく似る芽はさらに鮮やかな濃赤褐色である。小芋の着生数は少ないが親芋、子芋の肥大はよい。

「えぐいも」

マルチ早掘り栽培を参照。

「鳥播」

白芽で中生の子芋用品種。やや小ぶりの粘質で丸形の子芋、孫芋を多数つけ、耐乾性は最も強い。

### (1) 種芋

種芋は、品種固有の特性を有し、品質・収量性の健れるものを株単位で選抜する（秋の収穫時）。

選別に当たっては、病虫害の被害がなく、順芽が健全で、子芋が丸型で豊満な30～60gのものを中心に、生育の揃いを良くするため、なるべく大きさの揃ったものを選ぶ。種芋の必要量は100kg前後である。

## 2 施肥

連作障害防止のためにも、良質堆肥（有機物）を施用し、地力の維持増進に努める。

植え付け1ヶ月前に堆肥、苦土石灰を全面に施用後、深耕しておく。

基肥は植え付け4～5日間前に施用し、十分耕起して平畦をつくる。

なお、マルチ最愛をするときは、全量基肥施用のち畦立てを行うが、この際、畦立て整形マルチと植え付けを同時に行う作業機を用いると1度に出来るので省力的である。

施肥量 (kg/10a)

	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O
元 肥	20	25	20
全 量	20	25	20

サトイモは、石灰の吸収量が極めて多いので、石灰を必ず施用し（苦土石灰150～200kg/10a）、芽つぶれ症を予防する。

堆肥：2～3t

## 3 植え付け

(1) 時期 3月下旬

(2) 栽植様式 畦幅100cm

株間50cm（1条植え）

（2,000株/10a）

(3) 植え付け方法

平畦の中央に種芋の芽を上向きにして並べ、深さが10cm程度になるように管理機で培土する。

このとき、培土の量が少ないと、地上への萌芽は早く初期生育は良くなるが、生育中期以降乾燥や高

温の影響を受け生育が阻害され減収する。また、子芋の着生位置が浅くなり地表に露出したり、子芋からの萌芽が多くなったりして、品質を著しく損なう。

逆に、深植えにすると芽立が遅れ、生育が不揃いになったり、親芋や子芋が長くなったりする。

## 4 植え付け後の管理

### (1) 除草剤散布

雑草防止のため植え付け後、除草剤を全面に散布する。

### (2) 追肥及び中耕・培土

1回目…5月下旬頃、株間に追肥し（N：3kg）軽く培土（3cm）する。

2回目…6月中旬頃、株間に追肥（N：3kg）を行い、培土（6cm）する。

3回目…7月中旬頃、株より20cm位のところに追肥（N：3kg）を行い、培土（6cm）した後、ワラをかける。

培土は、梅雨明けまでに終わるようにする。乾燥期に入ってから培土はサトイモの根を切ったり、乾燥を助長して生育を阻害する。敷ワラは最終の追肥・培土の時に完全にし、乾燥防止に役立つ。

なお、培土は初回から厚くするとイモを長くするので、初めは薄く行う。

### (3) 灌水

サトイモは乾燥を嫌い、施肥量より灌水量によって収量が左右される。

土壌が乾燥すると養水分の吸収がおさえられ、施肥効果が落ちるだけでなく、生育、品質、収量が低下する。

特に夏期の乾燥時期はイモの肥大最盛期に当たるため、壤土の場合、手で握ると固まり、指先で軽くつついてもこわれない程度が目安である。

## 5 収穫

収穫は天気が良い日に行い、掘取り後2時間程度干して表面を乾かしてから収納する。

収穫機械を使えば収穫作業の省力化が期待される。

## 6 貯蔵

貯蔵は排水良好なところを選び、幅 1.2 m、深さ 1 m の穴を掘り、周囲及び底にワラを敷き、土が着いた芋をつけたまま株を向かい合わせて 4 段に重ねる。その上をワラで覆い、掘り上げた土を高く盛り上げ、再びその上にワラをかけ、寒い年にはさらにビニールで覆う。

また、畦から掘り上げずにそのままいけこんでおき、春までに順次収穫していてもよいが、この場合は覆土等の防寒対策が必要となる。